

○ 年金たる損害補償等の額の端数処理の取扱いについて（通知）

（平成20年4月1日 消基発第135号）

今般、「年金たる損害補償等の額の端数処理の方法について」の廃止について消防庁防災課から通知されたことに伴い、このたび当基金において情報技術の進展により標記に係る情報処理方法を改善し、各支給期月において支払うべき額の端数を分数として保持させることを可能にしたため、傷病補償年金、障害補償年金及び遺族補償年金（以下「年金たる損害補償」という。）並びに傷病特別給付金、年金たる障害特別給付金及び年金たる遺族特別給付金（以下「年金たる福祉事業」という。）について下記1のとおり取り扱うこととしたので、ご通知します。

また、休業補償及び休業援護金（以下「休業補償等」という。）の端数処理については、従来どおり下記2のとおり取り扱うこととしたので、遺漏のないようお願い申し上げます。

記

1 年金たる損害補償及び年金たる福祉事業の額の端数処理（別紙第1及び第2関係）

年金たる損害補償及び福祉事業の各支給期月における支給額（「年額×支給月数／12月」の額をいう。）に1円未満の端数があるときは、4月、6月、8月、10月及び12月の支給期月にあつてはこの端数金額を切り捨てた額を支給し、2月の支給期月（支給を受ける権利が消滅した場合においては、最後の支給月をいう。）にあつては当該月の支給額にこれらの切り捨てた端数金額を加算したものについて、1円未満の端数を切り捨てた額を支給するものとする。

2 休業補償等の額の端数処理（別紙第3関係）

休業補償等の額の計算に当たっては、休業補償は日々新たに生じるものであり、1日の額毎に端数処理を行うものとする。

3 備考

この取扱いは、支給期月が平成20年4月以後の年金たる損害補償及び年金たる福祉事業並びに平成20年4月1日以後に支給すべき事由の生じた休業補償等について適用し、支給期月が平成20年3月以前の年金たる損害補償及び年金たる福祉事業並びに平

成20年3月31日以前に支給すべき事由の生じた休業補償等については、なお従前の例による。

## 年金たる損害補償等の額の端数処理の方法

## 第1 年金たる損害補償の額の端数処理

## 1 通常の場合（基準政令第8条の2第1項、第2項）

<例> 遺族補償年金

$$\begin{array}{l} \cdot \text{遺族の数} \quad 4 \text{人} \\ \cdot \text{補償基礎額} \quad 10,718 \text{円} \end{array} \left\{ \begin{array}{l} \text{受給権者} \quad 2 \text{人} \\ \text{受給資格者} \quad 2 \text{人} \end{array} \right\} \quad 245 \text{倍}$$

○ 年金額

$$\begin{array}{l} \text{(補償基礎額)} \\ 10,718 \text{円} \end{array} \times \begin{array}{l} \text{(乗すべき数)} \\ 245 \end{array} \times \begin{array}{l} \left( \frac{1}{\text{受給権者の数}} \right) \\ \frac{1}{2} \end{array} = 1,312,955 \Rightarrow \underline{1,313,000 \text{円}}$$

(基準政令第12条の2による端数処理)

○ 4月、6月、8月、10月及び12月の各支給期月に受給権者に対して支払われる額

$$\begin{array}{l} \text{(年金額)} \\ 1,313,000 \text{円} \end{array} \times \begin{array}{l} \left( \frac{\text{支給月数}}{12} \right) \\ \frac{2}{12} \end{array} = 218,833 \frac{1}{3} \Rightarrow \underline{218,833 \text{円}}$$

(端数処理 [円未満切り捨て])

○ 2月期に受給権者に対して支払われる額

$$\begin{array}{l} \text{(年金額)} \\ 1,313,000 \text{円} \end{array} \times \begin{array}{l} \left( \frac{\text{支給月数}}{12} \right) \\ \frac{2}{12} \end{array} + \begin{array}{l} \left[ \begin{array}{l} 4 \text{月、6月、8月、10月及び} \\ 12 \text{月期に切り捨てられた額} \end{array} \right] \\ \frac{1}{3} \times 5 \end{array} \\ = 218,833 + \frac{1}{3} + \frac{5}{3} = \underline{218,835 \text{円}}$$

## 2 年金額が改定された場合（基準政令第8条の2第3項）

<例> 上記の例で、平成20年8月に受給資格者1人が失格し、遺族の数が3人（223倍）になった場合

・8月分

$$\begin{array}{l} \text{(年金額)} \\ 1,313,000 \text{円} \end{array} \times \begin{array}{l} \left( \frac{\text{支給月数}}{12} \right) \\ \frac{1}{12} \end{array} = \underline{109,416 \frac{2}{3}}$$

(端数処理は行わない)

・9月分

$$\begin{array}{l} \text{(補償基礎額)} \\ 10,718 \text{円} \end{array} \times \begin{array}{l} \text{(乗すべき数)} \\ 223 \end{array} \times \begin{array}{l} \left( \frac{1}{\text{受給権者の数}} \right) \\ \frac{1}{2} \end{array} = 1,195,057 \\ \Rightarrow \underline{1,195,100 \text{円}}$$

(基準政令第12条の2による端数処理)

$$\begin{array}{l} \text{(年金額)} \\ 1,195,100 \text{ 円} \end{array} \times \begin{array}{l} \left( \frac{\text{支給月数}}{12} \right) \\ \frac{1}{12} \end{array} = 99,591 \frac{2}{3}$$

(端数処理は行わない)

・ 10 月期の支払額

$$\begin{array}{l} \text{(8 月分)} \\ 109,416 \end{array} \frac{2}{3} + \begin{array}{l} \text{(9 月分)} \\ 99,591 \end{array} \frac{2}{3} = 209,008 \frac{1}{3} \Rightarrow \underline{209,008 \text{ 円}}$$

(端数処理)

○ 平成 20 年 12 月期に受給権者に対して支払われる額

$$\begin{array}{l} \text{(年金額)} \\ 1,195,100 \text{ 円} \end{array} \times \begin{array}{l} \left( \frac{\text{支給月数}}{12} \right) \\ \frac{2}{12} \end{array} = 199,183 \frac{1}{3} \Rightarrow \underline{199,183 \text{ 円}}$$

(端数処理)

○ 平成 21 年 2 月期に受給権者に対して支払われる額

$$\begin{array}{l} \text{(年金額)} \\ 1,195,100 \text{ 円} \end{array} \times \begin{array}{l} \left( \frac{\text{支給月数}}{12} \right) \\ \frac{2}{12} \end{array} + \begin{array}{l} \left[ \begin{array}{l} \text{4 月、6 月、8 月、10 月及び} \\ \text{12 月期に切り捨てられた額} \end{array} \right] \\ \frac{1}{3} \times 3 + \frac{1}{3} + \frac{1}{3} \end{array}$$

$$= 199,183 \frac{1}{3} + \frac{5}{3} = \underline{199,185 \text{ 円}}$$

3 年金たる損害補償を受ける権利が消滅した場合（基準政令第 8 条の 3 等）

<例> 平成 20 年 12 月に失権した遺族補償年金を平成 21 年 1 月に支払う場合

・ 遺族の数 1 人 …… 153 倍

・ 補償基礎額 9,667 円

○ 年金額

$$\begin{array}{l} \text{(補償基礎額)} \\ 9,667 \text{ 円} \end{array} \times \begin{array}{l} \text{(乗すべき数)} \\ 153 \end{array} = 1,479,051 \text{ 円} \Rightarrow \underline{1,479,100 \text{ 円}}$$

(基準政令第 12 条の 2  
による端数処理)

○ 平成 20 年 4 月期、6 月期、8 月期、10 月期及び 12 月期に支払われた額

$$\begin{array}{l} \text{(年金額)} \\ 1,479,100 \text{ 円} \end{array} \times \begin{array}{l} \left( \frac{\text{支給月数}}{12} \right) \\ \frac{2}{12} \end{array} = 246,516 \frac{2}{3} \Rightarrow \underline{246,516 \text{ 円}}$$

(端数処理)

○ 失権に伴い平成 21 年 1 月に支払われる額

$$\begin{array}{l} \text{(年金額)} \\ 1,479,100 \text{ 円} \end{array} \times \begin{array}{l} \left( \frac{\text{支給月数}}{12} \right) \\ \frac{1}{12} \end{array} + \begin{array}{l} \left[ \begin{array}{l} \text{4 月、6 月、8 月、10 月及び} \\ \text{12 月期に切り捨てられた額} \end{array} \right] \\ \frac{2}{3} \times 5 \end{array}$$

$$= 123,258 + \frac{1}{3} + \frac{10}{3} = 123,261 \frac{2}{3} \Rightarrow \underline{123,261 \text{ 円}}$$

(端数処理)

4 特殊公務災害の場合（基準政令第 11 条の 2）

- <例> 傷病補償年金 ・ 傷病等級 第 1 級……313 倍  
・ 補償基礎額 9,667 円  
・ 基準政令第 11 条の 2 の率  $\frac{40}{100}$

○ 年金額

$$\begin{aligned} & (\text{補償基礎額}) \quad (\text{乗すべき数}) \quad (1 + \text{割増率}) \\ & 9,667 \text{ 円} \quad \times \quad 313 \quad \times \quad \left(1 + \frac{40}{100}\right) = 4,236,079.4 \text{ 円} \Rightarrow \underline{4,236,100 \text{ 円}} \\ & \hspace{15em} (\text{基準政令第 12 条の 2} \\ & \hspace{15em} \text{による端数処理}) \end{aligned}$$

5 他の法律による給付との調整を行う場合（基準政令附則第 3 条）

<例> 遺族補償年金

$$\begin{aligned} & \cdot \text{遺族の数} \quad 3 \text{ 人} \quad \left\{ \begin{array}{l} \text{受給権者} \quad 1 \text{ 人} \\ \text{受給資格者} \quad 2 \text{ 人} \end{array} \right\} \quad 223 \text{ 倍} \end{aligned}$$

- ・ 補償基礎額 10,567 円  
・ 他の法律による給付 厚生年金保険法による遺族厚生年金  
及び国民年金法による遺族基礎年金  
・ 基準政令附則第 3 条第 1 項の率 0.80

○ 年金額

$$\begin{aligned} & (\text{補償基礎額}) \quad (\text{乗すべき数}) \quad (\text{調整率}) \\ & 10,567 \text{ 円} \quad \times \quad 223 \quad \times \quad 0.80 = 1,885,152.8 \text{ 円} \Rightarrow \underline{1,885,200 \text{ 円}} \\ & \hspace{15em} (\text{基準政令附則第 3 条第} \\ & \hspace{15em} \text{1 項による端数処理}) \end{aligned}$$

第 2 傷病特別給付金、年金たる障害特別給付金及び年金たる遺族特別給付金（以下「年金たる特別給付金」という。）の額の端数処理

<例> 遺族特別給付金

$$\begin{aligned} & \cdot \text{遺族の数} \quad 4 \text{ 人} \quad \left\{ \begin{array}{l} \text{受給権者} \quad 2 \text{ 人} \\ \text{受給資格者} \quad 2 \text{ 人} \end{array} \right\} \quad 245 \text{ 倍} \end{aligned}$$

- ・ 補償基礎額 10,718 円

○ 年金たる特別給付金の額

$$\begin{aligned} & (\text{補償基礎額}) \quad (\text{乗すべき数}) \quad (\text{支給率}) \quad \left(\frac{1}{\text{受給権者の数}}\right) \\ & 10,718 \text{ 円} \quad \times \quad 245 \quad \times \quad \frac{20}{100} \quad \times \quad \frac{1}{2} \\ & \hspace{15em} = 262,591 \Rightarrow \underline{262,600 \text{ 円}} \end{aligned}$$

（福祉規程第 23 条に  
よる端数処理）

○ 4月、6月、8月、10月及び12月の各支給期月に受給権者に対して支払われる額

$$\begin{aligned} & \text{(特別給付金年額)} \quad \left( \frac{\text{支給月数}}{12} \right) \\ & 262,600 \text{ 円} \quad \times \quad \frac{2}{12} \quad = \quad 43,766 \frac{2}{3} \Rightarrow \underline{43,766 \text{ 円}} \\ & \hspace{15em} \text{(端数処理)} \end{aligned}$$

○ 2月期に受給権者に対して支払われる額

$$\begin{aligned} & \text{(特別給付金年額)} \quad \left( \frac{\text{支給月数}}{12} \right) \quad \left[ \begin{array}{l} 4月、6月、8月、10月及び \\ 12月期に切り捨てられた額 \end{array} \right] \\ & 262,600 \text{ 円} \quad \times \quad \frac{2}{12} \quad + \quad \frac{2}{3} \quad \times \quad 5 \\ & = 43,766 \frac{2}{3} \quad + \quad \frac{10}{3} \quad = \underline{43,770 \text{ 円}} \end{aligned}$$

### 第3 休業補償及び休業援護金の端数処理

<例> 1日の全部労働不能のため、すべての給与その他の業務上の収入を得ることができなかった場合

- ・ 補償基礎額 10,567 円
- ・ 日数 30 日

○ 休業補償の場合（基準政令第5条）

- ・ 1日の額

$$\begin{aligned} & \text{(補償基礎額)} \quad \text{(支給率)} \\ & 10,567 \text{ 円} \quad \times \quad \frac{60}{100} \quad = \quad 6,340.2 \text{ 円} \Rightarrow \underline{6,340 \text{ 円}} \\ & \hspace{15em} \text{(円未満の端数切捨)} \end{aligned}$$

- ・ 支給額

$$\begin{aligned} & \text{(1日の休業補償の額)} \quad \text{(日数)} \\ & 6,340 \text{ 円} \quad \times \quad 30 \text{ 日} \quad = \quad \underline{190,200 \text{ 円}} \end{aligned}$$

○ 休業援護金の場合（福祉規程第8条）

- ・ 1日の額

$$\begin{aligned} & \text{(補償基礎額)} \quad \text{(支給率)} \\ & 10,567 \text{ 円} \quad \times \quad \frac{20}{100} \quad = \quad 2,113.4 \text{ 円} \Rightarrow \underline{2,113 \text{ 円}} \\ & \hspace{15em} \text{(円未満の端数切捨)} \end{aligned}$$

- ・ 支給額

$$\begin{aligned} & \text{(1日の休業援護金の額)} \quad \text{(日数)} \\ & 2,113 \text{ 円} \quad \times \quad 30 \text{ 日} \quad = \quad \underline{63,390 \text{ 円}} \end{aligned}$$